

民間資金等活用事業推進委員会第11回総合部会議事概要

日 時：平成18年4月7日（金） 10：00～12：00

会 場：合同庁舎4号館第2特別会議室

出席者：山内部会長、前田部会長代理、碓井委員、高橋委員、伊藤専門委員、
小幡専門委員、土屋専門委員、中村専門委員、三島専門委員、光多専門委員、
美原専門委員

事務局：伊藤民間資金等活用事業推進室長、町田参事官

議事概要：

(1) 今後の検討の進め方について

事務局より資料1を説明。委員からの主要な意見の概要は以下のとおり。

- ・経団連、日建連、JAPIC等の要望について、担当者から意見を聞いてもらいたい。
- ・(山内部会長) アンケートによると、VFMに関心があるようだ。
- ・アンケート結果について、もっと整理してわかりやすくすべき。VFMをやるとすれば、論理面をやるのか実践面をやるのか。また手法についてもガイドラインかコンメンタールとすべきか。
- ・(事務局) 生産的議論ができるように再整理して部会長に相談していきたい。
- ・安全についてはPFIだから特に何か、というものでもないと思うが、事故後の責任問題まで含めると難しい問題である。
- ・(事務局) 安全の確保は当然であるが、仙台市も検証しているし、内閣府でも勉強しているところ。
- ・アンケートについて、事業部門の担当者がよく理解していないからこういう結果になったのか。また、本委員会で個別課題について詰めた議論をするのか、アドバイザーの創意工夫の邪魔をしない環境整備的な議論にとどめるのか。
- ・(事務局) アンケートの回答については、我々の想定以上に深いものが出てきていると思う。
- ・VFM算定が形式化しているのは問題。大きなブレの範囲をとどめる指針を示すことは行うべき。
- ・問題は非常に錯綜しているので、それぞれの問題の間の相互の影響について整理していった方が良いのではないか。
- ・自治体の取組実態は様々なので、この委員会の検討を通じて底上げを図って欲しい。

- ・個々の自治体で個性の強いPFIが発注されているため、事業間の類似部分はマニュアル化して充実させることが必要である。
- ・検討課題の選定に時間をかけるべきではなく、とにかくやってみるべき。やり方については、ガイドラインは馴染まない。委員の署名入り文書でやるとか。
- ・(山内部会長) VFM、ファイナンス、安全等について、とにかくやる。6月くらいまでに議論したい。

(2) VFM評価の在り方について

事務局より資料2及び資料3を説明。委員からの主要な意見の概要は以下のとおり。

- ・(事務局)引き続きVFM検討委員会のメンバーで検討していきたい。
- ・予定価格がわからないと、発注者がどの程度のものを求めているのかわからない。また、予定価格を1円でも超えると失格というのはおかしい。
- ・特定事業の選定の際の評価と入札の問題が混同されている。整理すべき。
- ・予定価格については公共調達制度の中で検討すべき。
- ・(VFM調査報告書の公表に関して) VFMについては混乱状態にあり、当初からかかわった人間として責任を感じている。委員会としても、これに対して何らかのコメントをつけるべき。
- ・(事務局) 報告書公表の際の専門紙の記事を各委員に送付する予定。
- ・「適切な調整」における税の扱いはどうすべきか。
- ・税についての「適切な調整」の在り方についてこの委員会で決めるべき。
- ・独立行政法人は国、地方公共団体とは違うので考え方を委員会で示すべき。
- ・VFMについて各委員からペーパーを出してもらったらどうか。
- ・VFMをちゃんとやる意義はPFIにそぐわない事業の足切りにある。根本的には、VFMをどう使いたいか、ということ。VFMに客観的な数字はありえない。こう算定したらこうなる、という情報を発信していくべき。
- ・(山内部会長) VFMは委員から意見をいただいて研究会を進めていくこととしたい。

以上

[問合せ先]

内閣府 民間資金等活用事業推進室

TEL. 03-3581-9680,9681